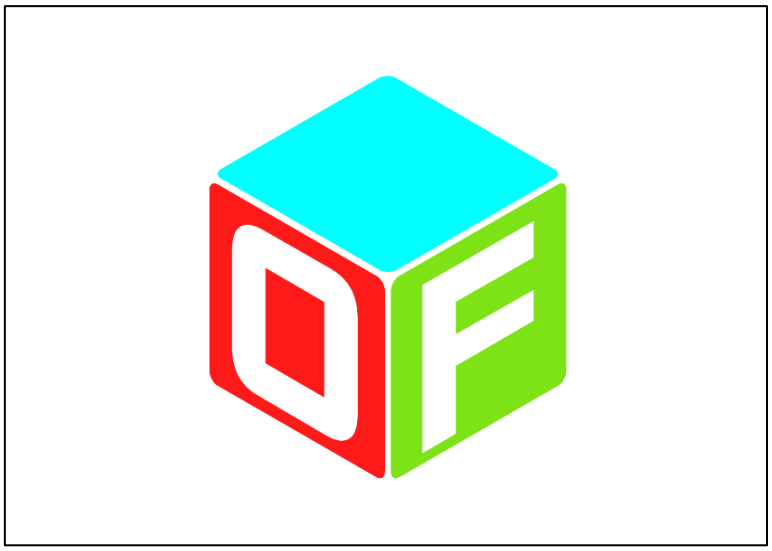
２０２６

推薦図書（すいせんとしょ）



１　目次（もくじ）

２　推薦図書（教職員・図書委員）（すいせんとしょ　きょうしょくいん　としょいいん）

３　編集後記（へんしゅうこうき）

群馬県立太田フレックス高等学校図書室（ぐんまけんりつおおたこうとうがっこうとしょしつ）

目次

校長　『ＮＡＳＡより宇宙に近い町工場』……1
副校長　『アルジャーノンに花束を』……1
『カフネ』……2
教頭（Ⅲ部）　『Ｒａｓｐｂｅｒｒｙ　ＰｉとＰｙｔｈｏｎでつくるＡＩアプリ開発実践ガイド』2
教頭（通信制）　『北極星～僕たちはどう働くか～』……3

Ⅰ・Ⅱ部

先生　『リスタデール卿の謎』……3
『家守綺譚』……4
先生　『デモクラシーのいろは』……4
先生　『もこもこもこ』……5
先生　『翻訳できない　世界のことば』……5
先生　『汝、星のごとく』……6
先生　『硝子のマンション』……6
先生　『ノラネコぐんだん　パンこうじょう』……7
先生　『人生で大切な事はみんなゴリラから教わった』……7
先生　『タイム・アフター・タイム』……8
先生　『オール１の落ちこぼれ、教師になる』……8
先生　『もう、誰かと比べなくていい。頑張りすぎなあなたのための「ゆるストイック」という処方箋』……9
先生　『容疑者Ｘの献身』……9
先生　『人間標本』……10
先生　『はじまりのスープ・夏ゼリー』……10
先生　『プレヴェール詩集』……11

Ⅲ部

先生　『嫌われる勇気』……12
先生　『西の魔女が死んだ』……12
先生　『人類の物語　ヒトはこうして地球の支配者になった』……13
先生　『試合が100倍おもしろくなる！　バレーボール観戦マニュアル』……13
先生　『走らんか！　福岡第一高校・男子バスケットボール部の流儀』……14
『春期限定いちごタルト事件』……14
『夏季限定トロピカルパフェ事件』……15
『秋季限定きんとん事件（上・下）』……15
『冬期限定ボンボンショコラ事件』……16
先生　『ことばのヤングケアラー』……16
『放課後』……17
先生　『山月記』……17
『お家、見せてもらっていいですか？』……18
先生　『決定版　面白いほどよくわかる！家紋と名字』……18

通信制

先生　『スローカーブをもう一球』……19
事務部
学校司書　『イン・ザ・メガチャーチ』……19
『熟柿』……20
『ＰＲＩＺＥ』……20
『さよならジャバウォック』……21
図書委員
（Ⅰ初）　『走れ児童相談所』……21
（Ⅱ初）　『掟上今日子の備忘録』……22
（Ⅱ初）　『プロジェクト・ヘイル・メアリー（上・下）』……22
（Ⅰ中）　『君の膵臓を食べたい』……23
（Ⅱ中）　『メタルギアソリッド　スネークイーター』……23
（Ⅱ卒）　『爆弾』……24
編集後記……25

『ＮＡＳＡより宇宙に近い町工場』

植松　努／著　ディスカヴァー・トゥエンティワン

北海道の田舎町でパワーショベルにつけるマグネットを製造する小さな工場を営みながら、宇宙ロケット開発に情熱を注ぎ、多くの困難を乗り越えて夢を追い続ける著者が「夢とは何か」「楽をしないで努力を楽しむ」「未来の社会をつくるために」を熱く語ります。

これからの長い人生では、ほとんどの人に大きな壁を乗り越えなければならない時が来ると思います。そんな時、みなさんには「どうせ無理」ではなく、この著者のように「だったら、こうしてみたら」という考え方で、その困難を乗り越えてもらいたいので、この本をおすすめします。



『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス／著　小尾　芙佐／訳　早川書房

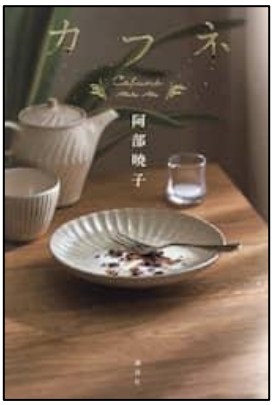
早川書房ＨＰより：
32歳で幼児の知能しかないパン屋の店員チャーリイは、ある日、ネズミのアルジャーノンと同じ画期的な脳外科手術を受ければ頭がよくなると告げられる。手術を受けたチャーリイは、超天才に変貌していくが・・・。人生のさまざまな問題と喜怒哀楽を繊細に描き、全世界が涙した現代の聖書。

時代を超える感動作。全力でオススメします！
ちなみに、ヨルシカの名曲「アルジャーノン」の基になった作品です。



『カフネ』

阿部　暁子／著　講談社



夫と離婚し、最愛の弟を亡くして自暴自棄になっていた「野宮薫子」は、弟の元恋人「小野寺せつな」と出会います。やがて「せつな」が勤める家事代行サービスを手伝うようになった「薫子」は、「せつな」自身が抱える心の傷を知り・・・。人は皆、「何か」を抱えて生きています。悩んでいる背中をそっとさすって寄り添ってくれるような優しい作品。
心が温かくなり、目頭が熱くなります。
2025年本屋大賞受賞作。オススメです！

『Ｒａｓｐｂｅｒｒｙ　ＰｉとＰｙｔｈｏｎでつくるＡＩアプリ開発実践ガイド』

むらさん／著　講談社



AIを「使う」から「つくる」へ！
Raspberry Pi（イギリスの財団が教育用として開発した、手のひらサイズの小さなコンピュータ）と Python（初心者でも学びやすいプログラミング言語）を使って、実際にAIアプリを開発してみよう。「AIってどうやって動いてるの？」が、手を動かしながら分かる一冊。プログラミング初心者にもおすすめ！

『北極星～僕たちはどう働くか～』

西野亮廣／著　幻冬舎



エンタメの世界で前人未到の挑戦を続ける著者が、「お金・心・販売/集客」という３つの軸から、これからの時代を生き抜くための働き方を語り尽くした一冊です。元信者なので何冊か買って人に配りましたが、まだ読んでません。

『リスタデール卿の謎』

アガサ・クリスティー／著

田村　隆一／翻訳　ハヤカワミステリ文庫

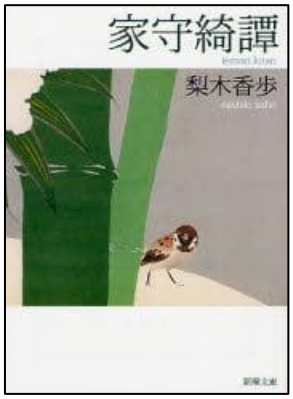


ミステリーの女王、アガサ・クリスティーの短編集。この人は「人は思っていることが言葉に出る」という点をすくい取るのが実にうまい。ポワロやミス・マープルのような有名な探偵は登場せず、本格的で重厚なミステリーでもないが、気楽に楽しめる一冊。

『家守綺譚』

梨木　香歩／著　新潮文庫

明治時代を舞台に、日常の中で非日常と出会う話。主人公と妖たちとの距離感が心地よい。会話や情景描写に緩急をつけて一気に読ませるユーモアがあり、読んだ後、なんとも穏やかな気持ちになれる不思議な一冊。



『デモクラシーのいろは』

森　絵都／著　角川書店

戦後まもない日本。GHQ の指示により民主主義のレッスンをすることになった日系二世のリュウ・サクラギと４人の日本人女性の話。空回りしつつも一生懸命なサクラギ先生、個性あふれる４人の生徒・美央子、孝子、吉乃、ヤエ＋女中のクニ、そしてレッスンの場を提供した元華族の仁藤夫人など、まず登場人物が魅力的。民主主義が揺らぎつつある今だからこそ一読の価値あり。終わり方もすっきり！



『もこもこもこ』
谷川　俊太郎／作　元永　定正／絵　文研出版

「しーん、もこもこ、にょきにょき...」
　このフレーズに、懐かしさを感じる人も多いかもしれません。児童書コーナーの定番として知られるこの絵本は、単なる幼児向けの読み物ではありません。言葉とアートの実験的なコラボレーションとして、今なお現代的な魅力を放つ一冊です。
　詩の構造は「オノマトペ（擬音語・擬態語）」により、意味よりも音の響きとリズムを追求しています。声に出して読むことで、言葉が持つ本来の力や音とイメージの結びつきを体験できます。本中に書かれている絵は、鮮烈な色彩と形がダイナミックに変化するビジュアルです。「現代アート」の視点から見ると、時間を追って変化するアニメーションのように展開し、その変遷は生命の誕生・成長・衝突、そして再創造というようにも読み取れます。
　皆さんも、改めて読んでみませんか。読むたびに新しい発見があるかもしれません。

『翻訳できない　世界のことば』
エラ・フランシス・サンダース／著　創元社



タイトル通りです。いくつか紹介します。
pisang zapra l（マレー語）：バナナを食べるときの所要時間。
Poronkusema（フィンランド語）：トナカイが休憩なしで、疲れず移動できる距離。
måangata（ノルウェー語）：水面にうつった道のように見える月明かり。
komorebi（日本語）：木々の葉のすき間から射す日の光。
waldeinsamkeit（ドイツ語）：森の中で一人、自然と交流するときのゆったりとした孤独感。
struisvogelpolitiek（オランダ語）：「ダチョウの政治」（意味は本書から探してみてください。）。
cafuné（ポルトガル語）：愛する人の髪にそっと指をとおすしぐさ。

それぞれの国の生き方を想像して（luftmensch イディッシュ語）しています。

『汝、星のごとく』
凪良ゆう／著　講談社

美しい瀬戸内の島を舞台に、17歳の高校生たちの王道の恋愛小説と思いきや、物語は15年間にわたって、時には傷つけ合い、支え合うという現実をリアルに描いています。身近な親をはじめ、周囲の環境や愛のすれ違いに翻弄されながらも、不器用に自立していく様は、きっと共感する部分があって、次第にこの物語に没入していけます。単なるハッピーエンドのラブストーリーではなく、読んだ後は深い余韻を残す内容となっています。



『硝子のマンション』
染井為人／著　幻冬舎

とあるマンション内で起きた事件の犯人たちが、事件を隠し通せるか、バレてしまい人生が終わってしまうのか、最後までハラハラドキドキさせられるストーリーです。犯人なので悪いことをしているわけですが、警察から逃げ切ってほしいと応援してしまいました。
パートナーや異性に不満を感じている方は、犯人たちに共感してしまうかもしれません。



『ノラネコぐんだん　パンこうじょう』
工藤ノリコ／著　白泉社



「ノラネコぐんだん」シリーズの１冊目の絵本。皆さんも本屋さんや雑貨屋さんで、グッズを見たことがあるかもしれません。

ノラネコぐんだんは好奇心が旺盛。行動が大胆で、周りを困らせているのに、とぼけたセリフばかり言って、かわいくて憎めません。

「ノラネコぐんだんが　みています」何かが起こる予感がします。

おいしそうなパン、かわいい登場人物。難しいことは考えずに、絵を見ているだけでも楽しい絵本です。

『人生で大切な事はみんなゴリラから教わった』
山極寿一／著　家の光協会



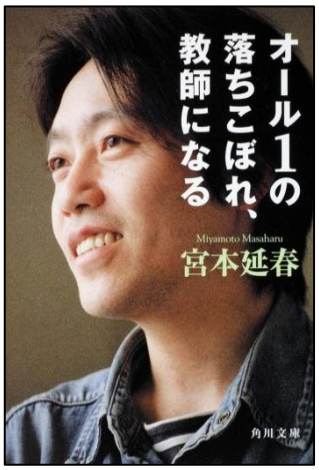
みなさんは集団の中で生きづらさを感じたことはありませんか？生きていてつらさを感じたことはありませんか？人生の困難さへの万能の薬はなく、また人からもらえるものでもありません（偶然にいただけることもあるかもしれません）。自分にあった答えを探す必要があると思います。答えを見つけて人生の困難さを軽減したり、豊かにしたりするには、そのヒントが必要になると思います。本書はゴリラの生き方（友達、ライバル、家族のあり方や接し方など）から、あなたが豊かに生きるためのヒントを提案してくれるかもしれません。読みやすいので隙間にすこし読んでみるいいかもしれません。

『タイム・アフター・タイム』
吉田修一 / 著　角川書店
～取り返しのつかない間違いをした
でも、大切な人のそばからは離れなかった～



かつての恋人と突然遭遇し、偶然にも同じプロジェクトのメンバーとして動き出す。大人としての距離を保ちつつも二十数年前の輝きに満ちたあの頃に思いを馳せる。沖縄の空と海、そこに住まう人々の優しさ、自由を手にしたと思い違いをしていた若さ。その全てが眩しいほどに輝いていた。少し現実離れしているかもしれないけれど、こんな純粋さと切なさと愛おしさと狂おしいまでの痛みを、みなさんにも体験してほしいな。

『オール１の落ちこぼれ、教師になる』
宮本延春/著　　角川書店



「優等生がそのまま教師になる。」それはそれで良いことであるが、今の時代必要とされる教師は、さまざまな理由で勉強ができなくなり、「落ちこぼれ」を経験した教師であろう。

それは、「いじめ」であったり「家庭環境」の問題であったり、「身体の障がい」であったりする。

少年時代劣等感の塊だった作者は、中学１年の通知表でオール１を経験する。しかし、中学校卒業後に奇跡的な出会いによって勉強に目覚め、国立の名古屋大学に入学し教師になるまでの痛快なストーリーである。

『もう、誰かと比べなくていい。頑張りすぎなあなたのための「ゆるストイック」という処方箋』
大浜　健／著　ルナワールド出版

あなたは、自分と他人を比べて疲れていませんか。SNSに投稿された友だちの最高の瞬間と、自分の普段の生活を比べて落ち込んでいませんか。自分の物差しを使うことで疲れた心が元気になります。また、自分がコントロールできることとそうでないことをはっきり見極めることにより、無駄な時間や労力を省くことができます。私もこの本を読んで自分の考え方の癖に気付きました。心が軽くなる一冊です。



『容疑者Xの献身』
東野圭吾／著　文藝春秋

夏休みに入ってすぐに、東野圭吾さんが亡くなった報道をみてショックを受けました。好きな作家さんの一人で、新刊がでると必ず読んでいました。もう、東野圭吾さんの小説が読めなくなってしまうと思うと悲しいですが、たくさんの面白い小説を残してくれました。

私が東野圭吾作品を初めて読んだのが「容疑者Xの献身」でした。とても評判のよい小説だったので、読む気がなかったのですが、誰かに薦められて仕方なしに読んだ気がします。でも、読み始めたらどんどんハマりました。読み終わって、本当にこの小説はすごい！！と思いました。それから、たくさんの東野圭吾作品を読みました。他にもおススメしたい東野圭吾作品がありますが、一番最初に読むなら「容疑者Xの献身」をおススメします。文字が苦手な人は、映画もあるのでそこから観てもらってもいいと思います。



『人間標本』
湊かなえ/著　角川書店

生徒に「この本おすすめ」と勧められたのがきっかけで手に取りました。ここまで引き込まれるとは…。
湊かなえさんらしい「え、そういうこと!?」の連続で、ページをめくる手が止まりません。人間の心の奥に潜む怖さや違和感がじわじわと迫ってきます。そして何より、「この先どうなるの？」という引力がすごい！結末を言いたい。でも言えない。言ったら絶対に怒られる。そんな本です。生徒のおすすめから始まった本が、「誰かに今すぐ勧めたい！」と思える一冊になりました。ぜひ、何も知らない状態で読んでみてください。
本が苦手な人はまずはドラマからでも!?
（ドラマを見たあとはぜひ本を!!）



『はじまりのスープ・夏ゼリー』
瀬尾まいこ/著　新潮社

“おいしい”という言葉が、読んだ人に元気を与えてくれます。
つぶれそうな食堂のオリジナル親子丼や涙が止まらない海の味のスープ、そして思い出のカラフルゼリーなど、主人公中森リリーが作る料理には傷ついた人の心をつなぎ直す不思議な力があります。
この本を読んだ後、あなたの大切な人とごはんを食べたくなる、心まで優しく満たされる本です。



『プレヴェール詩集』
　プレヴェール作　小笠原　豊樹訳　岩波文庫

ジャック・プレヴェール（1900年2月4日－1977年4月11日）は20世紀フランスを代表する国民的詩人。彼の詩に曲がつけられた『枯葉』世界中でスタンダード。詩作以外に、『霧の波止場』『天井桟敷の人々』の脚本や童話など多数。詩集『パロール（言葉たち）』はフランス国内だけで数百万部のベストセラー。熱狂的なファンの高畑勲もこの詩集を翻訳して出版。
秋になると読書する本のページに、枯葉が舞い落ちることも、そんな出会いになればと、多彩な語り口のさわりの部分を（※「夜のパリ」のみ全編）ご紹介します。続きは詩集を紐解いて。

「葬式に行くカタツムリの唄」；死んだ葉っぱの葬式に／二匹のカタツムリが出かける／黒い殻をかぶり／角には喪章を巻いて／くらがりのなかへ出かける／とてもきれいな秋の夕方／けれども残念　着いたときには／もう春だ／死んでいた葉っぱは／みんなよみがえる…

「血まみれの唄」；世界には大きな血溜りがたくさんある／ぶちまけられたその血はどこへ行くのか／地球がその血を飲んで酔っ払うのか／だとすれば妙な酔いっぷりだ／とてもおとなしい……とても単調な……／いや地球は酔わない／斜にまわったりしない…

「家族の唄」；おふくろが編み物をする／息子が戦争をする／これは当然のこと　とおふくろは思う／それならおやじ　おやじは何をする／おやじは事業をする／家内は編み物／息子は戦争／わしは事業／これは当然のこと　とおやじは思う／それなら息子　それなら息子は／どう思う息子は／息子は何とも思わない　何とも…

「わたしはわたしよ」；わたしはわたしよ　もともとこんなよ／笑いたかったら　きゃっきゃと笑うわ／愛してくれれば　私も好きだわ／相手がかわって　なんでわるいの／わたしはわたしよもともとこんなよ／しかたがないわね　しかたがないでしょ…

「唄」；きょうはなんにち／きょうは毎日だよ／かわいいひと／きょうは一生だよ／いとしいひと…

「夜のパリ」；三本のマッチ　一本ずつ擦る　夜のなか／はじめのはきみの顔をいちどきに見るため／つぎのはきみの目を見るため／最後のはきみのくちびるを見るため／残りのくらやみは今のすべてを思い出すため／きみを抱きしめながら

『嫌われる勇気』

岸見一郎・古賀史健　著　/ダイヤモンド社

「どうすれば人は幸せに生きることができるか？」世界１０００万部突破のベストセラー！心理学者アドラーの思想を物語にしてまとめた自己啓発本です。アドラー心理学ではすべての悩みは人間関係の悩みであると考えています。他人の評価を気にせず、自分らしく生きるヒントを教えてくれるはずです。難しい内容ですが、哲学者と青年の対話形式で書かれているので、理解しやすいと思いますよ。人に嫌われたくなくて悩んでしまっているあなた！人間関係に悩んでいる君にお勧めの一冊です。



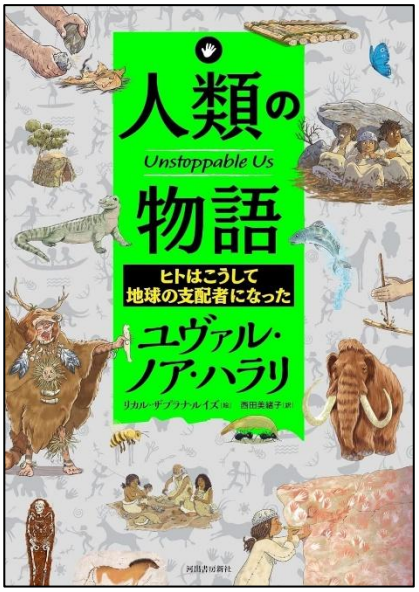
『西の魔女が死んだ』

梨木香歩／著　新潮社

『西の魔女が死んだ』は、心に傷を抱えた少女まいが、自然豊かな田舎で祖母と過ごす物語です。祖母との暮らしを通して、まいは少しずつ生きる力や自分らしく生きることの大切さを学んでいきます。優しい言葉と美しい自然の描写が心に残る、温かく感動的な一冊です。



『人類の物語 ヒトはこうして地球の支配者になった』
ユヴァル・ノア・ハラリ／著　河出書房新社



なぜ弱小だった人類が地球の支配者になれたのか？ベストセラー『サピエンス全史』の著者が、分かりやすく解き明かす一冊です。その鍵は筋肉や武器ではなく、存在しないものを信じる「想像力」と「物語」でした。お金や国家といった共通の幻想によって大昔から人類がいかに協力し、世界を変えてきたかが描かれています。イラストも豊富で、読むと歴史や人間観がガラリと変わるワクワク感に満ちた必読本です！

『試合が100倍おもしろくなる！ バレーボール観戦マニュアル』
福澤達哉／著　KADOKAWA



近年、バレーボールファンが急増している現状を、バレーボールに半ば人生を捧げてきた（？）私としては大変うれしく感じています。選手たちの漫画やアニメを超える迫力あるプレーは見ごたえがあり、きっと手に汗握ることでしょう。本書はそうした凄いプレーの裏にある、バレーボールの「見どころ」を徹底的に解説しています。憧れのあの選手、実は数々の技術や戦術を駆使して壮大な駆け引きをしながら戦っているのです。そこまで観戦できたら、あなたは一生バレーボール沼にハマり続けること間違いなし！さあ、ともに深淵なるバレーボールの世界へ。Let’s排球!!

『走らんか!

福岡第一高校・男子バスケットボール部の流儀』

井手口 孝／著　竹書房



福岡第一高校は、日本でも随一のバスケットボール強豪校。それを率いる井手口監督の熱い指導理念が詰まった一冊です。「苦しいときこそ声を出す」「当たり前のことを完璧にやる」といった愚直な姿勢には、自分の限界を超えるヒントが満載。伸び悩んでいる人や、チームでの悩みがある人に刺さる言葉が見つかります。

『春季限定いちごタルト事件』（小市民シリーズ第一作）

米澤　穂信／著　東京創元社



「小市民」として平穏に生きたいと願う高校生・小鳩常悟朗と小佐内ゆきの2人が、日常のささやかな謎や事件に巻き込まれていく学園ミステリーの第一作。

事件そのものは日常の些細な謎ですが、登場人物たちの内面にある一筋縄ではいかない「後ろ暗さ」や知略が垣間見えるのが見どころです。甘いお菓子とほろ苦い青春が絶妙に交錯する、人気「小市民」シリーズの記念すべき第一作です。

『夏季限定トロピカルパフェ事件』（小市民シリーズ第二作）

米澤　穂信／著　東京創元社



米澤穂信による学園ミステリーの第二作。

「小市民」を自称し、目立たず平穏に生きることを誓い合ったはずの高校生2人。しかし、その内面に潜む知略や危うさが、甘いスイーツの描写とは裏腹に恐ろしい人間模様を浮かび上がらせます。可愛らしいタイトルからは想像もつかない、ラストの強烈な大どんでん返しと、人間の底知れなさを描いた米澤穂信ミステリーです。

『秋季限定きんとん事件（上下巻）』（小市民シリーズ第三作）

米澤　穂信／著　東京創元社



米澤穂信による学園ミステリーの第三作。

「小市民」を自称し、目立たず平穏に生きることを誓い合ったはずの高校生2人。前作までの関係を解消したはずの小鳩と小佐内が、別々の場所で経験する甘く切ない、そして少し歪んだ人間模様が魅力です。日常の謎を扱うシリーズ特有のフワッとした空気感と、後半にかけて一気に明かされるサスペンスフルな展開のギャップが、多くの読者を引きつける一冊です。

『冬期限定ボンボンショコラ事件』（小市民シリーズ第四作）

米澤　穂信／著　東京創元社



米澤穂信による学園ミステリーの第四作。

「小市民」を自称し、目立たず平穏に生きることを誓い合ったはずの高校生2人。しかし、高校3年の冬に起きた突然のひき逃げ事件が、封印していた過去の記憶を呼び覚ます。春・夏・秋と積み重ねてきたシリーズの完結作であり、苦い過去と対峙する2人の関係性の変化を描いた、切なくも鮮烈なミステリです。

『ことばのヤングケアラー
“こども”　でいたかった、共に考える教育　のかたち』

アジズ・アフメッド/著　仲田 海人／執筆　クリエイツかもがわ



本校は外国にルーツをもつ生徒が半数近くを占めます。みなさんの友人やゼミ生、授業などでも一緒に過ごしますよね。

私自身も日本生まれ・日本育ちであるので、そのような生徒の気持ちに完全に寄り添うことはできませんが、知ると知らないは大きく異なるはずです。教育というタイトルになっていますが、ぜひ一緒に過ごすその生徒の文化や背景を知り、もっと相手のことを知るきっかけにしてみてください。

『放課後』
東野圭吾／著　講談社

今年7月、68歳の若さで死去された東野圭吾さんのデビュー作です。ドラマ・映画にもなった福山雅治主演の『ガリレオ』シリーズなど数多くのヒット作品を生み出し、老若男女のファンを持つ東野さんの「学校」を舞台としたミステリー小説の１つです。
自分も読書は苦手でしたが、大学生時代に夢中になって読み、その後も多くの東野さんの作品を読みました。ミステリー小説は読書が苦手な生徒でも読み進めやすいと思うので、ぜひチャレンジしてみてください。



『山月記』（乙女の本棚シリーズ）
作：中島 敦　絵：ねこ助　　立東舎

「その声は我が友、李徴子ではないか―」
文学国語の教科書にも載っている本作は、個人的に学生時代から高校国語で扱う作品では一番好きな作品です。
「授業でやったけど難しい…」「授業ではやってないけど読んでみたい」と思った方、是非、美麗なイラストとともに楽しめる本作で中島敦の文の美しさと物語を味わってみてはいかがでしょうか？



『お家、見せてもらっていいですか？』

『もっとお家、見せてもらっていいですか？』

著：佐久間 薫　　KADOKAWA



小学３年生の少年が、夏休みの自由研究に選んだのは、彼が何よりも大好きな「家」！
チョコパイを片手に町内の気になるお家を訪ねては「お家を見せてもらえませんか？」と交渉していく姿があまりにもピュアで可愛らしい。
偏屈そうな作家が住む日本家屋、彼女に出て行かれた男が住む蔦まみれ家、ミニマリストに、ゴミ屋敷のお婆ちゃん･･･様々な住人との交流や、
少年の手書き間取りが魅力的なコミックエッセイ。

『決定版　面白いほどよくわかる！家紋と名字』

監修：高澤等　森岡浩　西東社



「自分の名字って、なんでこの名前なんだろう？」と思ったことはありませんか？この本を読むと、名字や家紋に隠された意外な歴史や意味がわかります。戦国武将や歴史上の人物だけでなく、自分のルーツにもつながる話がたくさん。友達や先生の名字を調べてみると、思わぬ共通点や発見があって盛り上がるかもしれません。
「歴史は暗記」と思っている人ほど、歴史が身近で面白いものに変わる一冊です。ぜひ、自分の名字から歴史の世界をのぞいてみてください。

『スローカーブをもう一球』
山際　淳司/著　　角川文庫

春の選抜甲子園を目指す秋季大会群馬県予選が舞台。高崎高校野球部のエースピッチャーは超スローカーブを操り、独自のスタイルと頭脳的な駆け引きで勝ち進むが、決勝戦で敗退する。勝利の栄光だけでなく敗者のドラマにも光をあてる本作は、目標に向かい模索する高校生に、自分らしい挑み方と諦めない強さを教えてくれるノンフィクション傑作です。



※本作品は『江夏の２１球』という短編集に収められています。

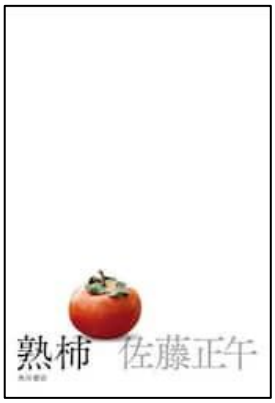
『イン・ザ・メガチャーチ』
朝井リョウ／著　日経ＢＰ日本経済新聞出版

特定のアイドルやアニメ、ブランドなどを熱烈に応援するファン集団の「好き」という情熱や共感を軸に、消費や支援が大きく動く仕組みがよくわかる小説です。
自分の生活や金銭面で無理をせず、周囲へのマナーを守って楽しむという、健全な「推し活」のあり方を考えさせられ、私自身も深く共感しました。2026年本屋大賞（1位）を受賞した、誰もが夢中になれる間違いのない一冊です。



『熟柿』
佐藤正午／著　角川書店

2026年本屋大賞第2位に輝いた本作は、出産を間近に控えながら、ひき逃げ事故を起こしてしまった主人公・かおりの半生を、壮絶に描いた傑作です。
一つの過ちが人生にどのように降りかかってくるのかが生々しく描き出され、人間のエゴや欲望、打算、そして息子への強い執着と愛が、まるで自分のことのように迫ってきます。
熟した柿の実が自然に落ちるのを待つように、気長に「時機を待つこと」の切なさと大切さを教えてくれる一冊です。



『ＰＲＩＺＥ』
村山由佳／著　文藝春秋

本を出せばベストセラー、本屋大賞にも輝いた売れっ子作家・天羽カイン。しかし、なぜか文壇からは正当に評価されず、直木賞には届かない。「今度こそは一」と全身全霊を注ぎ、信頼する編集者と二人三脚で挑んだ先に待つ、衝撃の結末とは？
作家と編集者の熱い絆や、リアルな選考の舞台裏が克明に描かれる本作は、2026年本屋大賞第3位に輝いた話題作。著者自身が直木賞作家だからこそ描けた、圧倒的な熱量を持つ文学エンターテインメントです。



『さよならジャバウォック』
伊坂幸太郎／著　双葉社



2026年本屋大賞第10位に輝いた本作は、主婦の殺人を起点に、人間の内に潜む凶暴な本質と、因果の糸を描く傑作ミステリーです。
本作の鍵を握るのは、人間の理性やリミッターを外し、攻撃性を剥き出しにする正体不明の「寄生生物」です。害虫駆除業者を装う息の合った夫婦の活躍や、理想の哲学を抱きながら正義を貫く大学サークルの元後輩、元有名アーティストの「歌声」も、物語の重大なキーとして交錯します。
点在する謎が一つに繋がる終盤の爽快感は圧巻。人間の闇と絆を圧倒的スケールで描いた一冊です。

「走れ児童相談所」
安道　理／著　せせらぎ出版

この小説の主人公は、児童相談所の職員です。
個性豊かな仲間たちとともに、成長しながら色々な子どもやその親と子どもたち、そして親を良い方向に導いていきます。ですが、大変なところも書いてあり感情移入してしまいそうになる、触れにくいところにも触れてくれるそんな、一度は読んでみてほしいヒューマンストーリーです。



『掟上今日子の備忘録』
西尾　維新／著　講談社



『掟上今日子の備忘録』は本を読んでみたいけどあまり長い内容の作品は読んでいられないという人にオススメです。一つ一つの事件がテンポよく進むので飽きやすい人でも楽しめる作品だと思います。登場人物もとても魅力的で、一度眠ると記憶がリセットされてしまう忘却探偵掟上今日子とどこに行っても事件に巻き込まれてしまう少年隠館厄介が数々の事件に挑みます。隙間時間にスマホを一度しまってこの作品を読むと新しい趣味が見つかると思います。

『プロジェクト・ヘイル・メアリー（上・下)』
アンディ・ウィアー／著　ハヤカワ書房



「プロジェクト・ヘイル・メアリー」は、一度ページを開いたら最後まで読む手が止まらない、極上のエンターテインメント小説だ。

物語は、主人公が記憶を失った状態で、見知らぬ宇宙船の中で目覚めるところから始まる。自分が何者なのか、なぜここにいるのかすら分からない極限状態の中、手探りで状況を把握し、巨大なミッションに挑んでいく。

この作品の魅力は、絶体絶命の中でピンチを科学の知識とひらめきだけで泥臭く突破していく姿にある。学校で習うような知識が最強の武器に変わる瞬間は、鳥肌が立つほど面白い。

圧倒的なスケール感と胸が熱くなる展開の連続。SF好きはもちろん、予備知識ゼロでページをめくる興奮を、ぜひ多くの人に味わってほしい一冊だ。

『君の膵臓をたべたい』
住野　よる／著　双葉社

私が『君の膵臓をたべたい』を読んで心に残ったのは、限られた時間をどう過ごすかということです。主人公と桜の性格は正反対ですが、一緒に過ごすうちにお互いに影響を与えていきます。二人の会話には面白いところも多く、重いテーマなのに読みやすかったです。特に当たり前だと思っている毎日や誰かと過ごせる時間が大切だと感じました。読み進めていくと、タイトルの意味がわかっていくところがおすすめです。感動だけでなく、人との出会いや、生きることを考えさせられる作品なので読んでみてください。



『メタルギアソリッド　スネークイーター』
長谷　敏司/著　　角川文庫

この作品はコナミ作のゲーム『メタルギアソリッド３』の小説版です。内容は一部と二部の二つに分かれています。一部は主人公のスネークがソ連のとある男の救出をする任務の話です。

二部は救出した男が再びソ連に捕まってしまった上にスネークの師匠がソ連に亡命してしまった為、スネークに師匠の始末と捕まった男の救出ミッションが命じられた話です。

果たしてスネークは師匠の始末と男の救出のミッションを完遂することができるのかはこの本を読んで確かめてください。



「爆弾」
呉　勝浩/著　講談社

酔った勢いで暴行を働き、警察に連行されたさえない謎の中年男「スズキタゴサク」が、「都内で一時間おきに爆発が起こる」と予告し、警察が止めるべく狭い取調室での心理戦と拡散する悪意と東京中を駆け巡り爆弾を探し、立ち向かうミステリーサスペンスとなっています。実写映画化もされていて多くの反響を呼んでいます。



編集後記

１０月２７日（火）から第８０回読書週間が始まります。図書委員会では、フレックス高生の皆さんが、本と触れ合う機会を持ち、読書週間を有意義に過ごしてもらいたいとのことから、読書案内を作成しました。この冊子では、校長先生、副校長先生、Ⅲ部・通信制教頭先生をはじめ、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ部・通信制の先生方、Ⅰ・Ⅱ部図書委員の皆さんがお勧めの本を紹介しています。読書のきっかけづくりや、読書の参考になれば幸いです。

この冊子で紹介した本は、ほとんど本校の図書室に置いてあります。この他にも図書室には、生徒の皆さんや先生方のリクエストで購入した本、芥川賞や直木賞、本屋大賞を受賞した小説をはじめ、いま話題になっている本、映画化・アニメ化された本、ライトノベル、知識や教養を身に付ける本、進路選択に役立つ本、日本や外国の文豪の名作（英語版もあり）など、様々な分野の本が揃っています。読書への発展を期待して、マンガも置いてあります。進学や就職試験の面接などで、最近読んだ本や感銘を受けた本について、聞かれることもよくあります。読書をすると役立つことばかりです。まずは１冊、気になる本を見つけ読書してみてはどうでしょうか。

最後になりますが、推薦図書を紹介してくださった先生方、ありがとうございました。また、図書委員の皆さんお疲れ様でした。

群馬県立太田フレックス高等学校　Ⅰ・Ⅱ部図書委員会顧問